

透明だった川が  
緑色になるのは、なぜ？



日本では川の色むしょくとうめいの代表的な色は緑色です。一般的

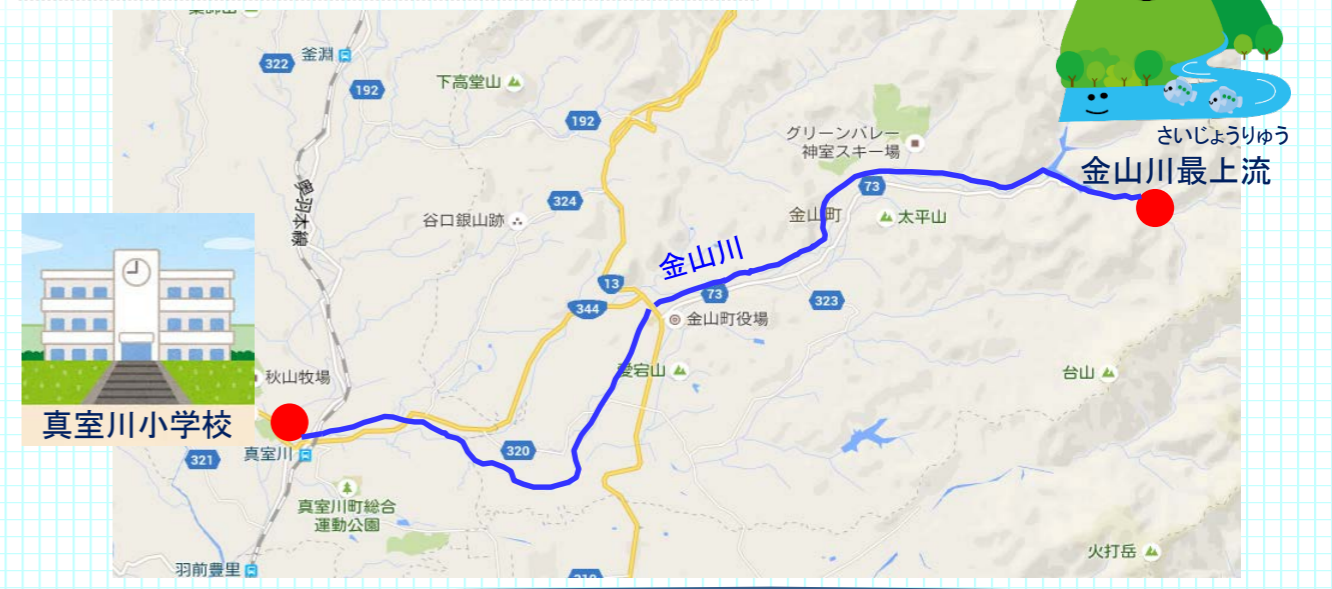
には水は無色透明ですが、川においては水の深さによって、人の見える光の量や、光があらゆる方向に飛び散る量などで、色が違って見えます。

光が川の水面にあたってはね返る量が多くなると白く光って見えますが、少ないと水の中の様子が観察できます。

川の水が深いと、人の見える光が水中に進入して、赤色系の光が吸収され、青色系の光があらゆる方向に飛び散って、緑から青く見えてきます。

## 金山川の上流(みなもと)はどこですか？

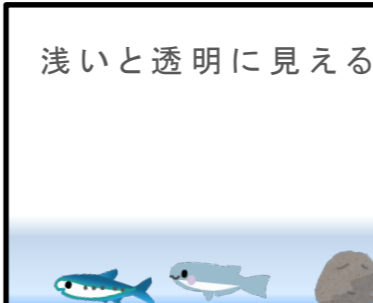
山形県と秋田県の県境にある<sup>けんざかい</sup>神室山<sup>かむろさん</sup>(高さ1365m)付近だといわれています。神室ダムや金山町を流れ、皆さんの真室川小学校付近で真室川に合流します。金山川の長さは、21.8kmです。



ポイント！

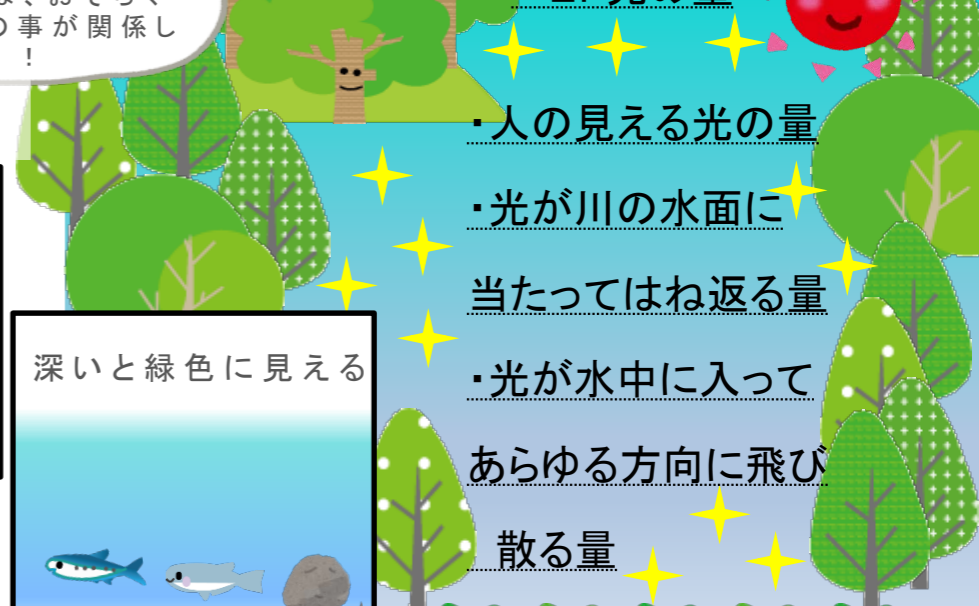
川の水が緑色に見えたのは、おそらく次の2つの事が関係しているよ！！

### 1. 川の水の深さ



なるほど～！

### 2. 光の量



- ・人の見える光の量
- ・光が川の水面にあたってはね返る量
- ・光が水中に入ってあらゆる方向に飛び散る量